

学界消息

史学研究会

例会 四月二十四日(土) 午後一時 薬友会館

地域研究に於ける二、三の方向

岩田 慶治

中央アジアの遊牧民と農耕民

羽田 明

例会 六月五日(土) 午後一時 薬友会館

奈良時代に於ける出挙と正税

直木孝次郎

崑崙伎について

水野 清一

国史関係

読史会新専攻生歓迎会 五月十三日(木) 午後三時 法然院

本年度新専攻生十三名の歓迎会は、幽邃な

法然院山内に於いて教授・先輩・学生等四十数名相集つて開催され、前途の希望を語りつつ和やかに行われた。

読史会例会 五月二十六日(水) 午後三時 京大陳列館演習室

現代日本史の問題点

古 代

門脇 禎二

中 世

黒田 俊雄

近 世

池田 敬正

近 代

中塚 明

読史会春季見学旅行 五月三〇日(日)

午前七時三十分京都駅に集り、晩春の播磨路を訪ねた。明石より貸切観光バスに乗車し太山寺に赴き、護良親王令旨、平家一門の書写と伝ふる法華經その他文書・什宝類を見学。

正午太山寺を發し、再びバスに乘車、車中で風食をしたため、鶴林寺に至る。文書類は多くを存しないが、太子堂、常行堂をはじめとする寺内の建造物、所蔵の美術品及び宝物館は、この僻地にかかるすぐれた寺院のあつたことを感歎させる。久しく米国に出陳されていた有名な白鳳時代の聖観音を見ることが出来たのも幸いであつた。

太山寺より最後の目的地浄土寺に至る。本堂、浄土堂の天竺様建築(建久年間建立)が注意をひいた。また浄土堂内には当寺開山重源上人の木像、運慶作と伝える阿弥陀三尊像が安置されていた。東大寺造営に連つて有名な大部庄は、東大寺文書によつて衆知のところであるが当寺所蔵の古文書はさして多くない。

かくて終日観光バスに身を委ね、小葉田教授・紫田教授・赤松教授・三品講師・林屋講師は約五十名の一同は夕刻六時すぎ明石を發し、快い疲れを覚えつつ帰途についた。特に兵庫県下在住の諸先輩が与えられた種々の面に於ける御厚意に対しては衷心より謝意を表するものである。

東洋史関係

東洋史談話会新専攻生歓迎会 五月四日(火)

宮崎・田村両教授をはじめ、教官・学生等約三十名は新専攻生四名を迎えて、修学院離宮・曼殊院・詩仙堂を見学して、五時すぎ散会した。

東洋史研究会 十二巻六号合評会 四月十三日(火) 午後三時より京大人文科学研究所本館会議室にて行つた。

京大大学院懇談会 四月十七日(土)

蒙古朝廷下の漢人諸侯 井の崎隆興

京大大学院懇談会 五月二十二日(土)

清仏戦争と黒旗軍 小玉新次郎

西洋史關係

西洋史読書会第一回春季大会は本年度初の試みとして関西一円の研究者を中心に五月二日(日)楽友会館において行われたが、予想以上の参加者を得て盛會裡に終つた。なお晩餐会は原先生還暦祝賀会を兼ねた。

ツキユディデスの歴史記述の態度——
テクメーリオンを中心として

永井 康視

エトルスキ起源論

浅香 正

イーゴリに関する疑問

木崎 良平

ロシアの名の起源

大西 晏

カロリング時代の幣制改革と流通貨幣

齋田 豊之

ドイツ騎士団の貿易活動について

山田 作男

百年戦争におけるイギリスのノルマン

川口 博

デイー占領軍について

永井 三明

ラファエロについて

会田 雄次

ルネサンス像について

柴山 英一

中世末期村落共同体の一問題

ジェントリ論に関する一、二の疑問
瀬原 義生

越智 武臣

富岡 次郎

国本 哲男

小野利一郎

茨木 慶三

アメリカ革命と航海条例

アメリカ鉄鋼業者の性格

フィラデルフィア憲法會議と司法權の有無

啓蒙思想の通路について

シャブリエ法の性格

フランス社会主義の起源について

アメリカ旧南部のいわゆるプーア・ホワイト

ドイツ帝國主義開始期の問題

カブリヴィの通商政策

第五回日本西洋史学会大会は五月二九三〇、三一日にわたり九州大学文学部において開催され、全国各大学からの発表者の登壇をみた。

一、研究発表(二九日)

オリエント最近の紀年について

中山・治一

岡部 健彦

板倉 勝正(北大)

太田 秀通(都立大)

中世末期ドイツ農村の農地零細分割の諸問題

北村 忠夫(名大)

ドイツ・ハンザ商人とリユーネブルクの産塩

モラリストと悲劇

高村 象平(慶大)

金沢 誠(学習院大)

前川貞次郎(京大)

一九世紀初頭の英國下院における「市民的要素」

フランスにおける貴族的土地所有解体の諸問題

井上 幸治(神大)

九月四日革命(一八七〇)後のパリにおける革命的諸組織について

西海 太郎(佐賀大)

マイネッケについて

西井 克巳(金沢大)

ドイツ世界政策思想と対英意識——

フリードリッヒ・リストについて

河部 利夫(東京外大)

カブリヴィの時期におけるドイツの通商政策

岡部 健彦(奈良女大)

商政策

板倉 勝正(北大)

太田 秀通(都立大)

中世末期ドイツ農村の農地零細分割の諸問題

北村 忠夫(名大)

ドイツ・ハンザ商人とリユーネブルクの産塩

モラリストと悲劇

高村 象平(慶大)

金沢 誠(学習院大)

前川貞次郎(京大)

一九世紀初頭の英國下院における「市民的要素」

歴史の立場から見た「国際政治」——
パワール・ポリテスィックについて

江口 朴郎（東大）

地理学関係

人文地理学会第五回例会

四月二十五日（日） 奈良女子大学文学部

岡山平野の地形

帷子 二郎

日本地理学会春季大会

五月二、三日

明治大学大学院

史学研究会々員関係の研究発表は左記の通りである。

低湿地農村——愛知県海部郡十四山村

に於ける土地問題を中心とする農村

構造と農業

喜多村俊夫

都市構成上よりみた衛星都市の性格

——大阪周辺の場合——

小林 博

愛知県矢作町の生産構造（一）

——給与所得者に関する分析——

井関弘太郎

露店市場の地理的連鎖に関する二、三

の考察——京阪神三都の場合——

樋口 節夫

近江における地域的分業の進展

矢守 一彦

欧人の西印度経営と奴隷労働力問題

——歴史的方法による労働力候候的

適性の人種差に関する研究——

和田 俊二

通婚現象の地理学的考察

堀川 侃

農業経営に於ける兼業の成立について

——安曇川三角洲新儀村の場合——

藤本 利治

隔絶地に於ける集落社会の分化——平均

化作用と自然環境の問題

——信楽山塊の高尾部落の場合——

谷岡 武雄

考古学関係

考古学談話会新専攻生歓迎会

五月十八日（日）午後三時

楽友会館

新専攻生として田中琢氏を迎え、左記の調

査概報・資料紹介を聴く。

彦岐原の辻周辺遺蹟

川端 真治

湖南省長沙出土品について

梅原 末治

編集後記

近頃は天災が忘れぬ中にやっ来て来ます。今年もここ数日來の雨で各地に被害の生じたことが伝えられています。會員の皆様が御無事で、この第四号を御手にされることを祈っております。本号は十七世紀頃の日本及び中国の経済史に關した論文を中心としたものになりました。今後とも猶一層の御支援を御願ひ致します。（狩野）

史 林 （第三七卷、四号）

一九五四年七月一日 印刷
一九五四年七月五日 発行

定価 百円

発行所 史 学 研 究 会

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

振替大阪一四五五六番

印刷所 中村印刷株式会社

京都市下京区七条御所ノ内東町三九